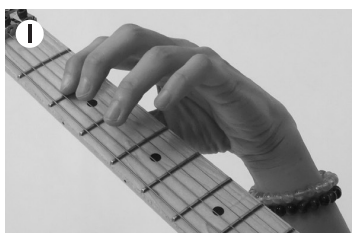


注意点1

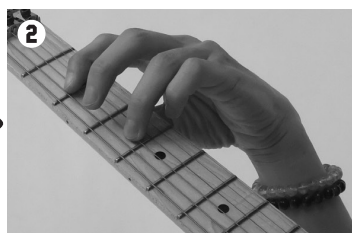


左手を鍛え上げてハッキリした発音を目指せ!

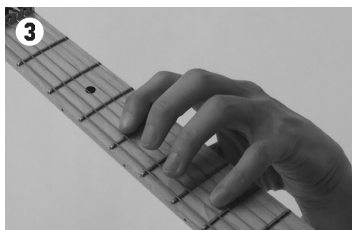
このメイン・フレーズのようなハンマリングとプリングをくり返すフレーズは、単純に押弦と離弦をくり返す動作になりがちになるが、それでは発音が弱くなるので注意が必要だ。そこで、ハンマリングでは指を指板にきちんと叩きつけ、プリングでは指を弦にキッチリ引っ掛けようように心掛けよう(写真①~④)。特に2小節目のような小指によるプリングは、音量が小さくなりやすいので、指先に意識を集中して弦を力強く捉えるようにしてしてほしい。フィンガリング力を徹底的に鍛え上げて、ハンマリングとプリングがピッキングと同じぐらいの音圧と音量で演奏できるようにしよう!



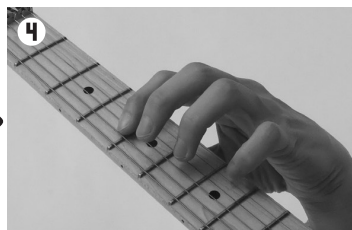
ハンマリング時。人差指で4弦2fを押弦して……



4fをハンマリング。弦をしっかりと叩こう!



プリング時。小指で4弦7fを押弦して……



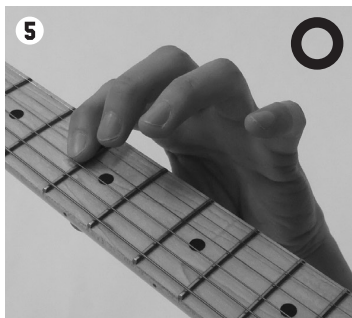
4弦の斜め下方向に指をしっかりと引っ掛けよう!

注意点2

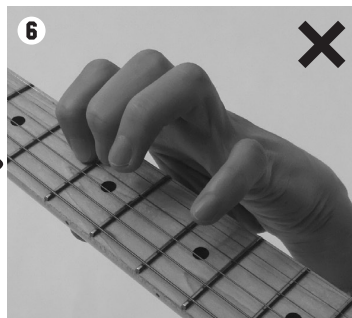


指を寝かせて押弦して余弦を確実にミュート!

ハンマリング&プリングを綺麗に聴かせるためには、発音はもちろんのこと余弦のミュートにも注意する必要がある。このメイン・フレーズでは、人差指を軸指にしてハンマリングとプリングを行なうが、人差指を活用して余弦のミュートを行なうと良いだろう。例えば4小節目1拍目の3弦4フレット(人差指)から5フレット(中指)へのハンマリング時では、人差指を寝かせて、4弦は指の先端で、2&1弦は指の腹部分を使ってミュートする(写真⑤)。指を立ててしまうと、隣接弦のミュートが甘くなるので気をつけよう(写真⑥)。ノイズの少ない演奏を実現するため、余弦のミュートにも気を配りながら演奏するべし!



ハンマリング&プリング時の人差指。指を寝かせて隣接弦を確実にミュートせよ!



人差指を立ててしまうと、隣接弦のミュートを的確に行えない。これではノイズの多い演奏になってしまうぞ!

注意点3



フレーズの区切りを理解して複雑なリズムを攻略しよう

このメイン・フレーズは、3小節目からリズムがやや複雑になる。この1小節内では1拍半フレーズ×2個+1拍フレーズの区切りになっているが(図1)、2個目の1拍半フレーズでは2拍目ウラから入るので、ここでリズムが乱れないように注意しよう。そのためには4分音符でカウントを取り、3拍目アタマの3弦5フレット(小指)のタイミングをしっかりと合わせるように心掛けてほしい。また、このような半拍3連符と16分音符が組み合わさったフレーズでは、半拍3連符を素早く弾こうとするあまり、誤って32分音符で弾いてしまうこともある。したがって、リズムがちょっとモタっているぐらいのイメージ【註】で演奏すると良いだろう。

図1 フレーズの区切り

・メイン・フレーズ3小節目

Musical notation diagram showing fret numbers (2, 4, 2, 5, 2, 4, 5, 2, 4, 2, 5, 2, 4, 5, 2, 4, 5) and rhythmic markings (h p, h h, h p, h h) for three phrases: 1拍半フレーズ, 1拍半フレーズ, and 1拍フレーズ. Includes a 3-measure bracket and a 6-measure bracket.

足踏みを4分に入れてリズムを取る。3拍目アタマの3弦5フレットのタイミングをしっかりと合わせよう。

【モタっているぐらいのイメージ】 ギター演奏における大前提はジャストのタイミングで弾くことだが、速弾きは気持ち焦るせいか、どうしてもリズムがハシリがちになる。時にはちょっと遅れるぐらいの意識を持ってもらいたい。